

《醒世姻縁伝》の非親族への親族呼称語についての考察 — “大嫂” と “奶奶” を例として

王 妹茵

《醒世姻縁伝》(西周生, 清初)(略称《醒》。以下同じ)において、様々な非親族を呼称する時、親族呼称語が使われる。親族呼称語は、普通は呼称される相手との親族関係を指示する以外に、相手の性別、年齢(ここでは、中国語の“年齢”、“輩分”という二つの意味を指す)と年長者への尊敬などを表す意味機能もある。しかし、《醒》で、それらの親族呼称語は非親族の人への呼称語として使われる時、上記の意味機能と同じであるのか。差異があるのか。もしあるとすれば、それは何なのか。本稿は“大嫂”と“奶奶”を例としてこの問題を検討する。その研究をもって、近世漢語の研究及び中国の白話小説を日本語に翻訳する仕事の一つの手がかりを提出する。

1. 先行研究

中国の学術論文のデータベースでは、管見によると《醒》の親族呼称語を考察する論文は一篇だけである¹⁾。黄悦(2012)は、《醒》の親族呼称語を親族関係によって分類し、《醒》の非親族を呼ぶ親族語の使用を検討した²⁾。しかし、黄悦(2012)は《醒》の非親族を呼ぶ親族呼称語への検討が単純で、各親族呼称語の意味を並べただけに過ぎない。さらに、非親族へ親族呼称語を使うという現象を検討する時、黄悦(2012), pp.104.は潘攀(1998)の“亲属称谓语的泛化”という概念を使っている³⁾。ところが、潘攀(1998), pp.34-35.の「论亲属称谓语的泛化」は現代漢語を対象として、“亲属称谓语的泛化”の概念を検討して、現代漢語でよく使われる16の親族呼称語が汎化されて、それからのような非親族を呼ぶことを並べた⁴⁾。それらの相手は《醒》で出現する親族呼称を用いて呼ばれる非親族の相手と比べると、明らかな差異がある。例えば、潘攀(1998), pp.35.は“嫂”という種類親族呼称語が汎化された後で、「自分と同じ世代でさらに自分より年取った女性」⁵⁾を呼ぶ言葉になる。この用法は《醒》の“大嫂”の使い方と明らかに一致していない。

① 狄周媳婦走到跟前, 問說: “怎麼來。大嫂你這們生氣。”(《醒》48.5a.4)⁶⁾

狄周の嫁は近づいて伺った。「どうなさいましたか。奥様、そんなに怒っていらっしゃったりして。」

上の例の中で、“大嫂”と呼ばれる相手の“素姐”は話し手である“狄周媳婦”と比べると、世代も年も下で、潘攀(1998)の規定と合致していない。その理由は《醒》が近世の白話小説だからだと考えられる。近世の中国はまだ人と人が不平等の社会で、人の地位などが必ず人の言葉に影響するからである。平等な中国の現代社会で使われる現代漢語を対象として検討される概念は近世漢語と完全に会うことができないと思われる。だから、筆者は黄悦(2012)の《醒》の非親族を呼ぶ親族語の使用への検討が不十分であると思う。

《醒》の非親族を呼ぶ親族語の使用をよりよく検討するために、筆者は黄悦(2012), pp.104.によつて言及する“拟亲属称谓语”⁷⁾という概念を調べた。馬瑩(2003)は《儒林外史》と《紅樓夢》からいくつかの用例を挙げて、その概念を検討している。馬瑩(2003), pp.74-75.は、“拟亲属称谓语”が親族語を使って、非親族の人を呼ぶという使い方を通し、中国語での敬語という語言の形式の乏しさを補充する⁸⁾。また、“拟亲属称谓语”の使用についての“亲疏”、“年齢”、“地位”、“礼仪”という四つの原則を指摘した⁹⁾。馬瑩(2003), pp.76.は特に“地位”という原則は他の三つの原則より優位であることを指した¹⁰⁾。しかし、馬瑩(2003)の検討は“拟亲属称谓语”の理論をまとめたが、近世の色々な擬親族呼称語の使用の状況を詳しく検討していない。

近世小説の擬親族呼称語を検討した論文はまた下記の三篇である。廖頌舉(2006)は《儒林外史》の“老”が付いた“拟亲属称谓语”を検討した¹¹⁾。張希玲(2006)はその時代の社会や文化などの視点から《水滸伝》の“哥哥”と“大哥”を詳しく検討した¹²⁾。張娜娜と李清華(2012)は《二十年目睹之怪現狀》の“拟亲属称谓语”を検討した¹³⁾。廖頌舉(2006), pp.123.は「“老”という接頭辞は修飾性が弱くなって、“尊敬”や“亲切”などを表す意味機能が強くなる」と述べた¹⁴⁾。廖頌舉(2006)は近世小説の擬親族呼称語の意味機能の変化も注意した。しかし、他の人はその点に検討していない。

王倩蕾(2015)は“拟亲属称谓语”の出現が単音節の親族呼称語¹⁵⁾の変化の結果である。古代漢語から現代漢語まで、単音節の親族呼称語が変化して“拟亲属称谓语”を構成されると言った¹⁶⁾。さらに、王倩蕾(2015)は、単音節の親族呼称語が“拟亲属称谓语”を形成する時、単音節の親族呼称語のそもそもの血の縁、年齢の意味機能がなくなって、政治や宗教などの意味機能を加える¹⁷⁾。王倩蕾(2015), pp.18.は、「近世まで、(形成された「拟亲属称谓语」の)尊敬の意味機能がなくなって、年齢を表す意味機能も殆どなくなっている。」と主張し、《紅樓夢》の一つの用例を挙げて、“奶奶”という非親族を呼ぶ“拟亲属称谓语”は年齢と尊敬の意味機能がなくなったことを証明した¹⁸⁾。

王倩蕾(2015)が“拟亲属称谓语”の近世での意味機能の変化を検討することは大変な価値があるが、簡単に近世の“拟亲属称谓语”の尊敬、年齢という二つの意味機能がなくなったと断言することは問題がある。確かに擬親族呼称語は近世まで、尊敬、年齢という二つの意味機能がそもそも親族呼称語と比べると、変わったといえる。しかし、その変化は単純ではない。そこで、筆者は《醒》の非親族を呼ぶ親族呼称語を例として、《醒》の擬親族呼称語を詳しく考察したい。その考察を通して、《醒》という時期で、擬親族呼称語の使用状況及び尊敬、年齢という二つの意味機能の変化を検討する。

2. 《醒》の非親族への親族呼称語について

王倩蕾(2015), pp.16.の論文によって、近世で、「爺、奶、公、婆、父、母、妈、伯、叔、婶、姑、舅、姨、哥、嫂、弟、姐、妹、侄と甥」という20個の単音節の親族呼称語は変化して、“拟亲属称谓语”を構成した¹⁹⁾。これらの単音節の親族呼称語によって構成される“拟亲属称谓语”はすべて《醒》で出現していない²⁰⁾。使用の頻度も違っている。ここでは、《醒》という時期での擬親族呼称語の尊敬、年齢などを表す意味機能の変化を検討するため、“大嫂”と“奶奶”という二つの親族呼称語を例として検討するつもりである。

2.1. “大嫂”について²¹⁾

次の表1に示す通り、《醒》で“大嫂”が親族間の呼称語として使われる用例がとても少ない。それに対して、非親族への呼称語として使われる用例は相当多い。非親族を呼ぶ用例の中で、地位が高い主人を呼ぶ用例も地位が同じな非親族同士を呼ぶ用例もある。どの種類の用例でも、殆どの会話の中で“面称”と“背称”という二つの使い方になっている。“叙称”の用例は3か所のみである。ここからみれば、《醒》で“大嫂”は擬親族呼称語として使われる呼称語である。

表1 “大嫂”の用例のまとめ²²⁾

| 親族語 | 呼ぶ相手 | 話者 | 使用回数 |
|-----|----------|---------|-----------|
| 大嫂 | 従兄の妻 | 相主事の嫁さん | b1 |
| | 息子の嫁 | 妾である母 | b1 |
| | 若い主人の妻 | 狄家の使用人 | b5+m16+b6 |
| | 若い既婚女性 | 非親族 | m2+x3 |
| | 友人・隣人の妻 | 友人、隣人 | b14+m23 |
| | 施主（既婚女性） | 道婆・尼 | b9+m19 |

《醒》で、“大嫂”という言葉は擬親族呼称語として使われるが、尊敬、年齢などを表す意味機能がどう変わるか。次は“大嫂”の使用をより詳しく分析する。

2.1.1. 使用人が用いる“大嫂”

使用人が使う呼称語である“大嫂”の呼び相手は“素姐”だけである。“素姐”へ“大嫂”を使つた使用人は狄家の使用人の“狄周”、“狄周媳妇”、“常功”という三人だけである。“常功”は2回だけで、その以外は“狄周”、“狄周媳妇”という二人である。主な呼び手とする“狄周”、“狄周媳妇”は“素姐”の夫である“狄希陳”が生まれた前に、狄家に勤めた使用人である。年齢から見れば、“素姐”より上である。このように使われた“大嫂”は年齢を表す意味機能から見れば問題がある。しかし、狄家と姻戚である薛家の使用人が使う呼称語と一緒に考察すれば、年齢を表す意味機能を意識的に使用して、尊敬を表す呼称語が只“大嫂”のみではないということは分かれる。

② 狄周尋到那裏，説：“…專自己回來迎接大嫂一同赴任，共享榮華。替大嫂打的銀帶，…”（《醒》85.6b.6）

狄周は素姉様の処に尋ねて、言った。「…わざわざ自分で奥様へお迎えになって、一緒に任地へいらっしやり、共にこれからの榮華を享受する;また奥様に銀の帯を作って差し上げて、…」

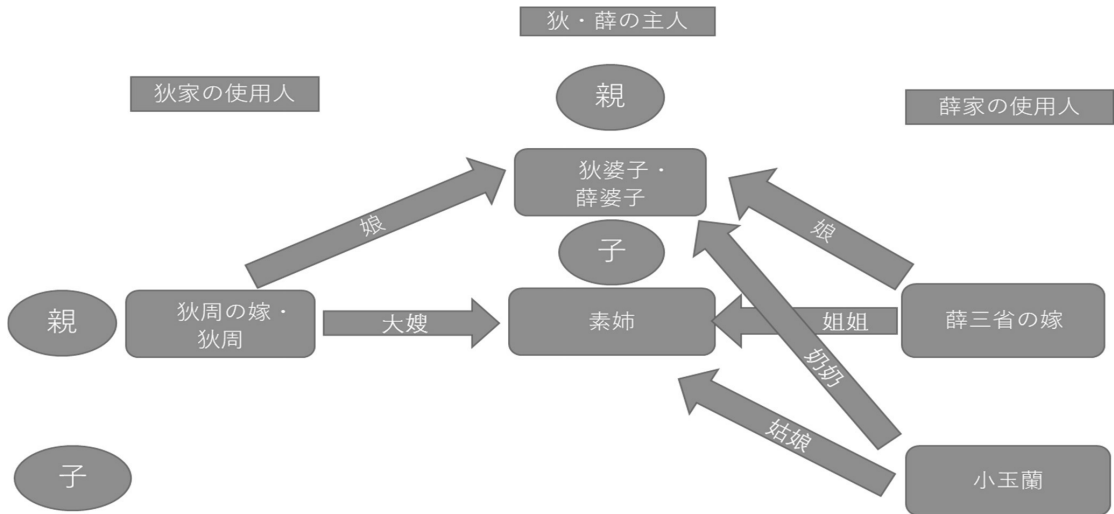
③ 小玉蘭説：“姑娘哄我哩。奶乜沒打姑娘呀。”（《醒》52.4b.7）

小玉蘭言った。「叔母様は私を馬鹿になさいますね。お婆様は叔母様を殴られたではないでしょうか。」

- ④ 薛三省娘子説：“娘怕姐ヒ還作業，不放心，叫我來看ヒ哩。”（《醒》45.13b.1）

薛三省娘子言った。「母さまは姉様がまだ筋違い事をされるかご心配になっていて、見守るため、私に來させてくださいました。」

図1 狄家・薛家の使用人が使う呼称語



上の図と用例から、狄家と薛家の使用人は、わざわざ自分の世代を下げて主人を呼ぶ。その上、世代の下降の以外、同世代呼称語の中で、年上の相手呼ぶ“姐姐”や“大嫂”などの呼称語を使う。即ち、《醒》で、“大嫂”のような親族呼称語は擬親族呼称語として、使用人に使われる時と年齢の意味機能がなくなったのではなく、主人へ尊敬を表すため、意識的に強調される。この用法は王倩菡(2015)の主張と違っている。

つまり、“大嫂”及び“大嫂”と類似する一連の使用人に使われた擬親族呼称語は親族呼称語の元の年齢を表す意味機能を利用して主人へ尊敬の意味を強調するのである。“大嫂”のような使用人に使われた擬親族呼称語は尊敬、年齢の意味機能がなくなったと言えない。

2.1.2. 地位が平等である非親族を呼ぶ“大嫂”

非親族間の呼称には、一般に“大嫂”は若い既婚女性への呼称語として使われる。ところが、《醒》で友人、隣人の妻を呼ぶ用例が一番多い。“道婆・尼”の如く赤の他人であっても、実際には、熟知した関係である。まったく知らない人を呼ぶ用例は《醒》で1例だけである(例⑨)。この点では、後で分析する“奶奶”とは違う。

- ⑤ 禹明吾道：“…還得計老叔、計大哥去勸晁大嫂回裡面去，你兩家都是甚麼人家”

(《醒》8.17a.6)

禹明吾が言った。「やっぱり計叔さん、計兄さんが晁姉さんを家へ帰るように勸めてくれなくていけない、両家も名高い家柄でしょう」

- ⑥ 杜郷約道：“你看狄大嫂糊塗。”（《醒》89.10b.6）
 杜郷約は言った。「ほら、狄姉さんはわけがわかりませんよ」
- ⑦ 白姑子道：“…若是大嫂，情管沒帳。久聞的狄大嫂甚是賢德，孝順翁姑，愛敬丈夫…”（《醒》64.5b.2）
 白という尼は言った。「若し奥さんなら、きっと大丈夫です。狄さんは大変やさしくて、舅と姑に孝行されて、夫も敬愛されるととくに聞きました」
- ⑧ 兩個道婆說：“…只打聽得大嫂往這頭來，可俺就來合大嫂說話；還只怕這裏相公嗔俺來的勤哩！”（《醒》68.5b.8）
 二人の道婆は言った。「奥さんがこちらに来られると聞いただけで、すぐ俺が奥さんと相談しに参りましたが、何度も来たのでこの旦那さまに怒れるか心配しています」
- ⑨ 那人們問說：“這位大嫂是誰家的。”（《醒》73.10b.4）
 あの人達は言った。「この姉さんはどの家の方ですか」

平等である非親族をよりよく説明するために、“大嫂”とその同義語を比較してみる。

まず、《醒》では、血縁がある親族間で使われる呼称語は基本的に“嫂子”という呼称語で、すべては76か所である。それに対して、“大嫂”と“数字+嫂”は非親族を呼ぶ用例が多い。第二、非親族を呼ぶ“大嫂”、“数字+嫂”と“嫂子”を比べると、表2の示したように、使い方が異なっている。“大嫂”は会話で直接の呼称語としてよく使われる。さらに、年齢という意味機能ははっきりしていないが、尊敬の意味機能が強い（例⑥⑦⑧⑨）。“数字+嫂”は叙述に用いられる用例が多く、人物を指示する言葉であると思う（例⑭⑮）。“嫂子”の3種類の使用は比較的均衡であるが、用例から見れば、年齢という意味機能がより明晰で、地位が平等である同士の間でよく使われる（例⑩⑪⑫⑬）。

- ⑩ 起先小鴉兒倒也常匕查考來的東西，他說晁嫂子與李嫂子央他做鞋納底，又央他厨房助忙，所以送與他的。（《醒》19.3b.10）
 最初、小鴉兒はよく彼女の物を点検した。彼女は晁さんと李さんに靴底を造るのを頼まれたり、料理の作りを手伝ってあげたりして、もらった事だといった。
- ⑪ 狄員外道：“這再沒有別說，只是我與林嫂子再三陪禮，央林嫂子轉勸令愛，不要着惱。…”（《醒》62.13b.1）
 狄員外は言った。「このようにならもう他のことを言えません。私は只林さんに何度もお詫びするだけです。林さんに彼女が怒らないように、娘さんを慰めてくださってもらいました。」
- ⑫ 玉蘭見了他說道：“省嫂子，姑夫叫你去替姑疊匕衣裳哩。”（《醒》45.9b.5）
 小玉蘭は言った。「省姉さん、若旦那様はあなたを呼んで、奥様に衣服を片付けてもらいます。」
- ⑬ 姑子悄匕的對狄婆子道：“這位嫂子是个羊脫生的”（《醒》40.12b.7）
 尼はこっそりと狄さんに言った。「この姉さんは羊から転生したのです。」
- ⑭ 晁夫人連忙使人請了閨女尹三嫂來看家，晁夫人自己收拾了…（《醒》20.3b.6）
 晁夫人は留守番してくれるため、急いで人に遣って、娘の尹さんを誘わせた。晁夫人自分は少し準備して、
- ⑮ 禹明吾跑到高四嫂家說道：“…高四嫂，還得你去勸他進去，別人說不下他了。”（《醒》8.17a.10）
 禹明吾は高さんの家に訪ねて言った。「…。高さん、やはりあなたしか彼女に勧告できないで

す。他の人では説得できない。」

要するに、“大嫂”は《醒》では、主に呼ばれる相手へ尊敬と丁寧を表すための擬親族呼称語として使われる。叙述に用いられて、人物の身分などを指示する機能はない。《醒》の“大嫂”は擬親族呼称語とするが、使用人によって使われる場合には、元の親族呼称語である“大嫂”の年上の人を指すという年齢の意味機能を意識的に利用して、聞き手へ尊敬という意味機能を強調する。地位が平等である非親族を呼ぶ場合では、元の年齢を表す意味機能があまり明らかではないが、尊敬という意味機能は同義語である“嫂子”や“数字+嫂”などより強くなっている。

表2 《醒》での“大嫂”及び同義語の使用回数

| 親族語 | 用例数 | 兄の妻 | 既婚女性 | 若い既婚の女性 主人へ |
|------|-----|------------------|------------------|----------------|
| 大嫂 | 99 | 2 (b2) | 70 (m44+b23+x3) | 27 (b11+m16) |
| 数字+嫂 | 44 | 3 (b3) | 40 (m6+x33+b1) | 1 (b1) |
| 嫂子 | 121 | 76 (m47+x11+b18) | 44 (m18+x13+b13) | 1 (b1) |
| 嫂 | 8 | 4 (b2+x2) | 4 (x4) | 0 |
| 嫂嫂 | 3 | 3 (s2+m1) | 0 | 0 |

2.2. “奶奶”について²³⁾

表3に示す通り、“奶奶”は親族を呼ぶ用法が《醒》であまり使われていない(41か所)。大部分の用例は非親族への呼称語である。1000か所以上の“奶奶”の用例の中で、「祖母」²⁴⁾を呼ぶ用例は23か所だけである。筆者はここで非親族を呼ぶことに用いられる“奶奶”の用例を詳しく分析するつもりである。

表3 “奶奶”の用例のまとめ

| 親族語 | 意味 | | 話者 | 使用回数 | |
|-----|-------|------|----------------|--------------|-----------------|
| 奶奶 | 祖母 | | 親族 | m8+b6+x9 | |
| | 既婚女性 | 北京 | 年輩の既婚女性 | 非親族 | m35+b27+x379+z2 |
| | | 北京以外 | 地位が高い既婚女性 | 非親族 | m52+b95+x114 |
| | | | 既婚女性(地位と無関係) | 非親族 | x3+m2+b2 |
| | 女性の主人 | | 非親族 (使用人など) | m110+b215+x6 | |
| | 妻/妾 | | 夫(非親族) | m11+b5+x2 | |
| | 女性の神様 | | 非親族(信者) | b18 | |

まず、注意しなければならないのは“奶奶”の地域性である。《醒》によって、北京地域で、“奶奶”は年取った既婚女性への呼称語である。地位がそれほど低くない女性の年輩者へは“奶奶”を呼ぶ。《醒》では、「京中人不叫爺不說話的所在… (77.7a.7)」という記述がある。これは、男性の呼称語に対する習慣であるが、対になる女性呼称語である“奶奶”もその類似的な使い方もある。それだけではなく、小説で、北京地域で、多くの叙述に用いられる“奶奶”の用例は見られる(379か所)。これで、《醒》の北京地域では、“奶奶”は親族呼称語だけでなく、地域方言の非親族的呼称語と近い意味機能を持っていると言える。このような“奶奶”は「年齢」の意味機能が曖昧になるが、尊敬の意味機能も弱くなっている(例⑱)。

- ⑩ 狄員外問道：“童奶有幾位姑娘，幾位公子？”（《醒》54.2b.4）
 狄員外は聞いた。「童さんは何人のお嬢ちゃんとお坊っちゃんがありますか。」
- ⑪ 童奶奶道：“…要是狄奶奶難說話，快着別要做…”（《醒》55.2b.1）
 童さんは言った。「若し奥さんが気になさるなら、早くやめたほうがいい」
- ⑫ 李奶奶說是他認義的姐奶，小虎哥是他的外甥。（《醒》75.5b.2）
 李さんは彼女が自分の義姉で、トラちゃんが自分の甥です。

それに対して、北京地域以外で、“奶奶”は地位が高い女性への呼称語として使われる。“晁夫人”はその代表的な例である。“晁夫人”は“奶奶”と呼ばれる用例は233か所で、話し手の身分は使用人から県知事まで様々である。“素姐”と“寄姐”は夫である“狄希陳”が官吏になった後で、色んな人によって“奶奶”と呼ばれる。“薛教授”の妻は小説の初めに登場する時、赤の他人である狄家の使用人によって“奶奶”と呼ばれる(例⑳)。薛家と狄家が段々仲良くなってから、“薛教授”の妻は“薛大娘”と呼ばれる(例㉑)。各種の官僚の配偶者を指示する時、基本的に“奶奶”を使う(例㉒㉓㉔)。さらに、信者が神様を呼ぶ時も“奶奶”を使う(例㉕)。

- ⑬ 晁鳳說：“奶先合他說來，叫他這粥裏頭，莫要枯刻…”（《醒》32.5a.3）
 晁鳳は言った。「主人様は先に彼に仰いました。この粥の中に…」
- ⑭ 鄉約道：“他家晁奶見在，你們分罷了，如何來打搶…”（《醒》20.10b.6）
 郷約は言った。「彼のご夫人がいらっしゃいます。お前たちは財産を分けてもかまわないが、何で強奪するのか。」
- ⑮ 徐老娘拉過一個枕頭來，說：“奶你且打個盹兒，等我守著…”（《醒》21.4b.2）
 徐さんは枕を引いて、言った「奥様、暫くお休みになって下さい、私が番をしていますから…」
- ⑯ 那縣尹道：“…我明日還與奶掛扁。回家多拜上奶。”（《醒》22.17b.7）
 あの県知事は言った。「私は明日にご夫人に横額を掛けてあげる。帰ったら、ご夫人によろしく伝えてください」
- ⑰ 德遠又悄悄的對張樸茂說道：“新來的奶，觀其這般狠毒，下狠手殺夫…”（《醒》95.14a.9）
 德遠はまたこっそりと張樸茂に言った。「新しく来る奥様は大変悪いようで、夫すらも殺そうとして…」
- ⑱ 張樸茂老婆道：“奶，你消奶氣罷！…”（《醒》87.5b.1）
 張樸茂の嫁は言った。「奥様、怒らないでください。」

- ②⑤ 一個醫學正科…稟道：“…就是軍所的胡爺，也常是被奶匕打得沒處逃避，蓬了頭，赤着脚…”（《醒》91.14a.3）
ある医務担当者は申し上げた。「…。軍隊担当である胡閣下も、奥様に逃避する所もなく叩かれて、髪が滅茶苦茶乱れ、靴もなくなりました。…」
- ②⑥ 狄員外問那指使的人…回道：“是一位老爺，一位奶匕，一位小夫人，一個使女…”（《醒》25.1b.4）
狄員外の問いに召使は返事して言った。「一人の旦那様と一人の奥様及び一人の妾と一人の下女です。」
- ②⑦ 說着，只見外頭說道：：“薛大娘到了。”狄婆子接住，…讓薛夫人自己到素姐房中。（《醒》45.3b.1）
言って、外の伝えことが聞かれた。「薛ご夫人がお越しになりました。」狄さんは迎えに行つて、…薛夫人に一人で素姐の部屋に入らせた
- ②⑧ 相主事道：“…你見着繡江縣知縣匕丞的奶匕親戚出來頑要的沒有。（《醒》77.11b.3）
相主事は言った。「繡江縣の県知事の奥さんや親戚などが外地へ遊ぶことを見ましたか。」
- ②⑨ 兩個道婆說：“…都是這些大人家的奶匕。”（《醒》68.6a.7）
二人の道婆は言った。「みんなはこれらの名高い家柄の奥さんです。」
- ③⑩ 那个四奶匕見了銀子，倒還不甚喜歡，見了那副手鐲…（《醒》14.6b.2）
県官の妻は銀子を見ても、あまり気に入らなかつたが、あの腕輪を見たら、…
- ③⑪ 只見走進一個六十多歲的尼姑，說道：“我是泰安州後石塢奶匕廟的住持，要與奶匕另換金身。…”（《醒》40.7a.2）
60歳の尼が入つて来て、言った。「私は泰安州後石塢の奶奶廟の住職で、奶奶廟の像を塗り替えるつもりです。」

即ち、北京以外の地域は、“奶奶”は基本的に官吏の妻のような地位が高い女性への擬親族呼称語として使われる。この地域の異なりを分析することはこれからの研究課題の一つである。

しかし、北京以外の地域では、“奶奶”は地位が高い女性への呼称語として、尊敬の意味機能は強いが、年齢の意味機能は殆どなくなった。例えば、晁家で、“晁夫人”と“計氏”は世代が異なっているが、二人も“奶奶”と呼ばれる（例①⑨⑩）。“晁夫人”と“計氏”を区別するため、晁家の使用人はわざわざ“晁夫人”を“老奶奶”と呼ぶ（例⑩）。ここで注意すべきは、《醒》の時代に、“老”という接頭辞は依然に年齢を表す意味機能を持っていて、尊敬などを表す意味機能だけではない。この点が廖頌舉（2006）と異なっている。

他に、“奶奶”は妻と妾などと呼ぶ用例もある（例⑩⑪⑫）。時に“大”と“小”が付いたことを通して、妻と妾を区別して呼ばれる。時にその区別をしない。数字が付いた“奶奶”は意味が多様である。（表4を参考ください）

これらの“奶奶”は、親族呼称語として祖母を呼ぶ場合での年齢、尊敬という意味機能を持っているが、ほかの女性や主人、妻、妾を呼ぶ場合、年齢という指示意味機能が基本的になくなった。その結果尊敬という意味機能だけが残された。

- ③② 養娘道：“奶ヒ沒要緊，…老爺老奶ヒ明媒正禮與大爺娶的正頭妻，…大奶ヒ你也不敢回去。”（《醒》9.3a.3）
下女は言った。「奥様は、大した事ではありません。大旦那様と大奥様によって迎えられた正妻です。…奥様は実家へ戻る必要はありません。」
- ③③ 晁大舍道：“鸚哥，你說話與奶ヒ聽，我與你豆兒吃。”（《醒》6.11b.8）
晁大舍は言った。「インコちゃん、奥さんに話してくれるなら、私は豆をやるよ。」
- ③④ 吳推官磕頭起來，說道：“因念奶ヒ身邊沒人伏侍，年小丫頭又不中用，空叫奶ヒ淘氣。…”（《醒》91.6b.3）
吳推官は拝礼して、言った。「お前さんに仕える人がないと思ったのさ。それに、今の若い下女では役に立たない、只お前さんを怒らせるだけだからね」
- ③⑤ 晁住媳婦道：“不好，這是大奶ヒ附下來了。你听這那是珍姨的声音…”（《醒》11.5a.9）
晁住の嫁は言った。「やばい、これは奥様が体に憑いたのです。ほら、これはもう珍姐さんの声ではないでしょう。」
- ③⑥ 胡無翳道：“…他知道小奶ヒ懷着孕，他說怎麼得托生來做兒子，好報奶ヒ。…”（《醒》22.7a.5）
胡無翳は言った。「…。彼は側室さまが懐妊していると知ると、どうしても転生して、息子として奥様にご恩を返し易いようにね。…」
- ③⑦ 郭大將軍在京娶了兩房家小，一位姓權，稱為權奶ヒ，一位姓戴，稱為戴奶ヒ。（《醒》85.4a.10）
郭將軍は北京で二つの側室を娶った。一人の苗字は權で、權夫人と呼ばれ、もう一人の苗字は戴で、戴夫人と呼ばれた。

要するに、“奶奶”は北京地域で年輩の既婚女性への擬親族呼称語として使われる時、元の親族語である「祖母」の意味機能と比べると、尊敬の意味機能は弱くなったことが判明した。北京以外の地域で、地位が高い女性或いは女性の主人への擬親族呼称語として使われる場合で、年齢の意味機能は殆どないが、尊敬の意味機能は強くなっていると思われる。

“奶奶”は前述の同様な擬親族呼称語として使われるの“大嫂”と比較して、以下のような特徴が見える。

a) 北京地域で“叙称”に大量に使用されている“奶奶”は人物の属性を指示する呼称語（人の性別、年齢、婚姻状況などを表明する）と似ているから、尊敬の意味機能は弱くて、年齢の意味機能はあいまいになった。その点で王倩蕾（2015）の主張と合致する所がある。

b) 北京以外の地域で、地位の高い女性への擬親族呼称語として使われる時に、尊敬の意味機能は強いが、“大嫂”のような年齢の意味機能を意識的に使用する用例相当少ない。《醒》で、“大嫂”と似ている“奶奶”の用例は全部で3例に過ぎない。（ここで2例を並べた。例③⑤③⑥）。それらの“奶奶”は尊敬と年齢の意味機能はまだ失っていない。だから、前の言ったように、王倩蕾（2015）の主張は近世漢語の全ての擬親族呼称語の使用と合致していない。

- ③⑧ 小玉蘭道：“我這們說，奶ヒ打我可哩？”（《醒》52.4b.6）

小玉蘭は言った。「私がこんなことを言えば、大奥様は私を叩くでしょう。」

- ③⑨ 狄希陳…又把小玉蘭…再三囑咐：“…我就叫你姑娘一頓打殺了，還有你爺ヒ問你討命哩。再不，我合那頭薛奶ヒ説…”（《醒》66.4a.4）
- 狄希陳は…小玉蘭に何度も言い付けた。「私はアレに叩き殺されたら、さらにお父さん²⁵⁾はお前に仇を討つのだぞ。そうだな、私は実家の奥様言に言いつけてやるぞ。…」

3. 結論と今後の課題

本稿は“大嫂”と“奶奶”を例として、《醒》の非親族を呼ぶ擬親族呼称語の使い方を分析した。近世の時期で、親族語は擬親族呼称語として使われる時に、尊敬と年齢のという二つの意味機能は確かに変容した。しかし、本稿で分析したように、その変容は不均衡である。

年齢の意味機能が意識的に使用されて、尊敬の意味機能が強調される言葉はある、例えば“大嫂”。年齢の意味が殆どなくなり、尊敬の意味だけの敬語機能が強い言葉もある、例えば“奶奶”。また地域によって使い方も異なっている言葉も注意すべきである。それで、近世の擬親族呼称語の変容について、語彙一つずつ詳しく分析する必要がある。

これから、《醒》のすべての非親族を呼ぶ親族語を整理し、別の近世の材料と比較して、近世の非親族を呼ぶ親族呼称語を詳しく究明したい。

表4 “奶奶”の他の用例

| 親族語 | 親族語意味 | 呼称相手 | 話者 | 用法と回数 |
|-----|-------------|---------------|-------------|-----------|
| 大奶奶 | 正妻 | 計氏など | 下人/丈夫/父親/他人 | b12+m6+x1 |
| | | 各種官吏之妻 | 小説敘述 | b2+x39 |
| 小奶奶 | 妾 | 春鶯 | 晁家清客 | b1 |
| | 娘 | 寄姐 | 母親 | b1 |
| 二奶奶 | 妾 | 春鶯，寄姐 | 他人（地位が低い） | x3+b1 |
| 三奶奶 | 家族の三番目の祖母 | 晁夫人 | 晁氏族人 | b12+m18 |
| | 三番目の息子の妻 | | | x1 |
| 四奶奶 | 県庁の四番目の官僚の妻 | 典史の妻 | 小説敘述 | x2 |
| 老奶奶 | 年取った女性の主人 | 晁夫人/狄婆子/童氏/龍氏 | 使用人、娘 | b14+m1 |

注

- 1) 本稿の論文は「中国知网」によって検索する。<http://www.cnki.net/>。
- 2) 黄悦 (2012) : 「《醒世姻縁伝》親属称谓研究」, 揚州大学 (修士論文), 2012年5月.
- 3) 黄悦 (2012) : 「《醒世姻縁伝》親属称谓研究」, 揚州大学 (修士論文), 2012年5月. P104
- 4) 潘攀 (1998) : 「论亲属称谓语的泛化」, 『语言文字应用』, 教育部语言文字应用研究所, 1998年第2期. P34-35
- 5) 潘攀 (1998) : 「论亲属称谓语的泛化」, 『语言文字应用』, 教育部语言文字应用研究所, 1998年第2期. P34-35
- 6) 出典の表示は以下の通りである。
例えば:《醒》48.5a.5
《醒》は書名、48が回数、5aが葉数 (aが葉の表、bが葉の裏) で、5が行数である。なお、長文で行を跨る用例は最初の下線を引く語の行を表記する。以下同じ。
- 7) 黄悦 (2012) : 「《醒世姻縁伝》親属称谓研究」, 揚州大学 (修士論文), 2012年5月. P104
- 8) 馬瑩 (2003) : 「拟亲属称谓语的語用规则和語用功能」, 『淮南职业技术学院学报』, 2003年1月. P74-75
- 9) 同上
- 10) 馬瑩 (2003) : 「拟亲属称谓语的語用规则和語用功能」, 『淮南职业技术学院学报』, 2003年1月. P76
- 11) 廖頌舉 (2006) : 「《儒林外史》の“老”という接頭辞が付いた擬親族呼称語の探微」, 『語言新觀察』, 2006年3月.
- 12) 張希玲 (2006) : 「《水浒传》中拟亲属称谓文化特征初探」, 『吉林省教育学院报』, 2006年第六卷.
- 13) 張娜娜と李清華 (2012) : 「《二十年目睹之怪现状》拟亲属称谓探析」, 『攀枝花学院学报』, 2012年6月
- 14) 廖頌舉 (2006) : 「《儒林外史》词头“老”类拟亲属称谓词用法探微」, 『现代语文』, 曲阜师范大学, 2006年3月. P123
- 15) 王倩蕾 (2015) は単音節の親族語を親族語の語素と規定して、“拟亲属称谓语”がその語素から変化されたことと考えている。
- 16) 王倩蕾 (2015) : 「汉语拟亲属称谓语研究」, 南京師範大学 (修士論文), 2015年3月.
- 17) 同上
- 18) 王倩蕾 (2015) : 「汉语拟亲属称谓语研究」, 南京師範大学 (修士論文), 2015年3月. P18
- 19) 王倩蕾 (2015) : 「汉语拟亲属称谓语研究」, 南京師範大学 (修士論文), 2015年3月. P16
- 20) 筆者の整理によると、《醒》では「伯、舅、父、母、弟、妹、甥」によって構成された擬親族呼称語はみられない。
- 21) 《醒》で、“大嫂”と類似な呼称語の用例のまとめは付録 i を参照。
- 22) 本稿の用例はすべて台湾・中央研究院近代漢語コーパスによって検索した。
<http://app.sinica.edu.tw/cgi-bin/kiwi/pkiwi/kiwi.sh>.
但し、論文で取り上げた用例は全て上海古籍出版社の影印本と対照した。
表の中の英字の意味は以下のようにする。

mは“面称”、bは“背称”、xは“叙称”。他の表も同じである。

- 23) 《醒》で、“奶奶”はと類似する呼称語の用例のまとめは付録iiをご参照ください。
- 24) 《醒》で、「祖母」という意味の“奶奶”は一般的な八親等の以外、一族の人と養子縁組の親族も含める。
- 25) “你爺ヒ”の字面の意味は「大旦那さま」であるが、そのまま訳せば文脈の意味が分かりにくいので、ここでは「お父さん」と訳す。

参考文献

- 西周生（清初）：《醒世姻缘傳》（1-5卷），上海・上海古籍出版社，1994年11月。
- 潘攀（1998）：「论亲属称谓语的泛化」，《语言文字应用》，教育部语言文字应用研究所，1998年第2期。P34-38
- 馬瑩（2003）：「拟亲属称谓语的语用原则及语用功能」，《淮南职业技术学院学报》2003年第1期。P74-77
- 張希玲（2006）：「《水浒传》中拟亲属称谓文化特征初探」，《吉林省教育学院学报》2006年第6期。P22-23
- 廖頌舉（2006）：「《儒林外史》词头“老”类拟亲属称谓词用法探微」，《现代语文》，曲阜师范大学2006年3月。P122-123
- 黄悦（2012）：「《醒世姻缘传》親属称谓研究」揚州大学（修士論文）2012年5月。
- 張娜娜と李清華（2012）：「《二十年目睹之怪现状》拟亲属称谓探析」，《攀枝花学院学报》2012年6月第29卷第3期。P57-60
- 王倩蕾（2015）：「汉语拟亲属称谓研究」南京師範大学（修士論文）2015年3月。

[付記]

本稿は日本中国語学会九州支部夏季例会（久留米大学，2016年7月9日）、及び中国近世語学会研究集会（愛知大学東京事務所，2016年12月10日）にて口頭発表した内容を骨子とする。席上、種々貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。論文執筆を通じ、植田均教授から、懇切なご指導をいただき、心より感謝致します。

付録

i. 《醒》の“大嫂”と類似である女性への「擬親族呼称語」の用例のまとめ

| 呼称語及び意味 | 呼称相手 | 話者 | 用法と回数 | |
|---------|-----------|-----------|------------|-----------------|
| 大娘 | 女主人 | 狄/薛/連 | 下人 | b25+m14 |
| | 年取った既婚女性 | 狄/晁/相 | 知人/姻戚 | x2+b7+m3 |
| | 父の兄の妻 | | | x6 |
| 大嬸 | 若い既婚女性 | 計氏/素姐 | 隣人、知人等 | m7+x1 |
| | 女の若い主人 | 計氏 | 下人/婆母 | b5+b1 |
| 姑娘 | 女の若い主人 | 素姐/寄姐 | 小玉蘭等下人 | m14+b15+x1+b4 |
| | 父の姉妹 | | 親族 | m6+b8+x14 |
| | 若い女性(夫の妹) | 素姐/寄姐/巧姐 | 知人/他人/親族 | x10+m7+b10+x1 |
| | 娘/妹 | 寄姐(北京)/童氏 | 母/兄 | x1+m7+b5 |
| 姑 | 女の若い主人 | 素姐 | 小玉蘭等下人 | b11+b4(主人も)+m3 |
| | 父の姉妹 | | | x1 |
| | 若い女性 | 巧姐 | 親族 | x1+b2 |
| | 夫の母 | | | x8 |
| 姐姐 | 女の若い主人 | 素姐/巧姐/寄姐 | 薛三省娘子/調羹など | m19+b29 |
| | | 妾/女主人 | 下人/接生婆 | b4+m1 |
| | 姉 | | 親族 | x23+b20+m36+z1 |
| | 若い女性 | 非親族 | 非親族 | m5+x1 |
| | 妻/妾 | 素姐/寄姐 | 素姐/寄姐 | x5+z1+b2+m1 |
| 姐 | 妾 | 春鶯, 調羹, 龍 | 下人/兒子 | b2(晁)+b14+m8+x3 |
| 娘 | 年長の女の主人 | 薛/狄 | 妾/狄周, 薛三省等 | b27+m12(父と息子も) |
| | 母 | | 親族 | x146+b95+m36+z7 |
| 姨 | 妾 | 珍哥/春/龍/調 | 下人/妾之間/官 | b48+m7+x18+(夫も) |
| | 母の姉妹 | | 親族 | b3+x1 |

ii. 《醒》の“奶奶”と類似である女性への「擬親族呼称語」の用例のまとめ

| 呼称語及び意味 | 呼称相手 | 話者 | 用語と回数 | |
|---------|----------|--------------------|--------------|-------------|
| 夫人 | 既婚女性 | 地位が高い人(官僚)の妻 | 叙述と下人、官員、鄰里 | x990+m5 |
| | 妻 | 夫が官僚ではない(薛) | | x18 |
| 老夫人 | 年取った既婚女性 | 晁夫人 | 官員、叙述 | m1+x3 |
| 小夫人 | 妾 | 龍氏 | 下人、狄員外 | b2+x1 |
| 太太 | 官僚の妻/母 | 陳公公之母など | 下人、百姓、兒子、妾など | m26+b52+x55 |
| | 非官僚の妻など | 童氏、珍珠、相氏 | 親戚、主人、下人など | m2+m3+z1+x1 |
| 老太太 | 官僚の母 | 陳公公之母/某官之母 | 童七、下人 | b12 |
| 婆子 | 年取った既婚女性 | 狄氏など (官吏の妻ではない) | 叙述に用いる | x328+b9 |
| | 妻 | | 夫、他人 | x31+b10 |

表の中の「Z」は“自称”という意味です。

Abstract

The names of relatives which address non-relatives
in “*XingshiYinyuanZhuan*”

Wang shuyin

“*XingshiYinyuanZhuan*”, the Chinese novel in 17th century, (abbreviate to “*xing*”, similarly hereinafter), when a variety of non-relatives are addressed, names of relatives are used. This report will study these names of relatives addressed to non-relatives in “*xing*”. As names of relatives, in addition to demonstrate the relationship of speaker and the addressed one, they can also demonstrate sex, age (in this report, the “*age*” means age and the status of a generation in Chinese) and regard to the elder. However, in “*xing*”, when they are used to call the non-relatives, is the meaning of those names of relatives still the same? If there is a difference, what is it? This paper will consider this issue by analysing “*dasao*” and “*nainai*”, which is the typical names of relatives addressed non-relatives in “*xing*”.